

「ハワイ大学マノア校語学研修 (NICE) 参加報告書」

京都大学文学部 2年 木邑 彩乃

8月1日から8月18日までの約3週間、ハワイ大学マノア校で行われたNICEプログラムに参加してきました。プログラムの詳細について説明すると、初日にオリエンテーションとプレースメントテストが行われ、次の日からテストに基づいた少人数クラスに分かれて授業が行われます。参加者は日本人が最も多く、私のクラスもほとんどが日本人でしたが、初めて出会う人との交流は刺激的で面白かったです。NICEプログラムのポリシーは英語オンリーであるため、1日の授業が終了するまでは休み時間であっても常に英語で話すことが求められます。授業は2~4人の小グループでの会話やディスカッションを中心に進みました。NICEプログラムの魅力の一つは、英語オンリーのポリシーや、スピーキングに重点が置かれていることにあると思うのですが、私はスピーキングが最も苦手なので、正直かなり不安でした。しかし、自分の能力に合ったクラスに配属されること、先生がみんなの発言を引き出すためにさまざまなゲームを用いてくれたことのおかげで、楽しんで英語を学ぶことができました。授業で主に学ぶのはハワイに関する事柄で、いつも理想の地として描かれるハワイの、理想とは離れた側面を学んだり、ハワイ出身の片腕のサーファーの物語を描いた映画を見たりして教養が深められたと思います。授業時間内に簡単なフラレッスンも体験できました。また、週に2回、ハワイ大学の学生と約1時間会話をするインターチェンジがあり、自分の会話スキルを試す良い機会となりました。週末にはオフキャンパスアクティビティが行われて、生徒の希望に合わせてハワイの観光地巡りや文化体験ができます。私のクラスでは、ウクレレ工房を見学したり、首飾りのレイ作りを体験したりしました。オフキャンパスアクティビティも授業の一環なので、その間はもちろん英語で話すことが求められますし、訪問する観光地について事前に調べたことをその場でみんなに紹介することもありました。このプログラムでは、自らの英語の発信力の弱さを痛感させられるとともに、恐れずに声に出して言うことで間違いに気づき、自分の英語運用能力が改善されるということを知りました。スピーキングはやはりまだ苦手分野のままですが、英語を話すことをそんなに怖がる必要はないと思うことができるようになりました。

ハワイ大学マノア校はハワイ州のオアフ島にあり、オアフ島は非常に有名な観光地であるため、ほぼどこにも日本人がいます。したがって、留学先として外国人ばかりいる環境を期待すると少々がっかりするかもしれません。しかしながら、英語学習者にとって、ハワイはアメリカ本土や他の欧米諸国に留学する前段階の地として非常に良い場所だと思います。日系をはじめアジア系の人々が多いため、欧米とアジアの間のような雰囲気があって、自分を徐々に海外の環境に慣らすことができるからです。ハワイには日本食レストランも多くありますし、日本製品を売っているスーパーもあります。したがって、日本が恋しくなってもすぐに日本を感じるができます。また、ハワイでは日本と同じように家の中で靴を脱ぐ家庭が多いです。私はハワイに行くまでこのことを知らなかったのが、驚きました。そのようにアジア的な部分も多いですが、周囲の建物などの景観、交通機関の仕組みなどは日本とまるで異なります。また、文化の違いを発見するのも面白いです。例えば、日本では肌が白いことがステータスですが、ハワイでは日焼けした肌が理想的とされます。留学の魅力は、異文化を肌で体験でき、視野が広がることだと思います。海外で生活することで、今まで当たり前だと思っていた日本での習慣や文化が、海外から見ると実は独特だということに気づくこともあります。そういったことは、日本だけで生活していたり、旅行で数日間海外に行くだけでは分からないことなので、積極的に海外で生活する体験をするべきだと思います。

3週間は長いようで本当にあっという間でした。今回の留学を通して、自分の英語能力はもっと改善の余地があること、短期間では飛躍的な向上はできないものの、異文化体験の面では非常に有効であることがわかりました。自分の英語力の未熟さから長期留学に対して尻込みしていた部分がありましたが、今後長期の留学も視野に入れていきたいと思うようになりました。